

飛び出せ ベンチャー

ニュービジネスを育むひと

アンドロイド携帯の総合プロ デューサーとして市場変革の 波に乗る

天野友昭 ランディード社長

米グーグルの参入で、長らく閉鎖状態だった日本の携帯電話市場にも激変の予感が漂っている。この機に乗じて、携帯端末の新たな可能性を広げようと果敢に挑むのが、ランディードの天野友昭氏だ。

衝撃度は 아이폰の比ではない

グーグルの携帯電話向けOS「Android（アンドロイド）」搭載の多機能携帯電話（スマートフォン）が、この7月にNTTドコモより発売され、大きな話題となった。アンドロイドは従来の携帯OSとは異なり、外部の開発者が自由に改良、再配布できるのが特徴。米アップルの「iPhone（ 아이폰）」に次ぐ海外からの黒船来航で、閉鎖的だった日本の携帯市場にも変革の波が押し寄せている。

オープンソースというアンドロイドの

特徴を最大限に生かし、ビジネスを拡大しようとしているのがランディードの天野友昭社長だ。事業の中心は、アンドロイド向けのソフトやアプリケーションの開発だが、サービス、コンテンツ、ハード開発など、さまざまな案件に対応できると豪語する。

同氏は以前、組み込みリナックスのベンチャー企業立ち上げに参加したことがあり、当時からアプリケーションの開発に携わってきた。その経験を持つ同氏から見ても、アンドロイドの登場は「まさに衝撃」だったという。

アンドロイド携帯を最初に製品化したのは、台湾のスマートフォン・PDAM

カーであるHTC社だが、携帯電話の開発は、何百人ものエンジニアが2年以上かけて行うのが業界におけるそれまでの常識。その競争力の源泉とも言えるOSのソースコードをすべて公開するという発想に、天野氏は「時代が変わる予感を感じた」と述べる。

ランディードの顧客は、携帯端末メーカーだけでなく、自動車メーカーやレコードメーカー、芸能プロダクションなど多岐にわたる。例えば、映画配給会社がハイビジョン対応の高精細な映像で作品を端末に流したいとする。従来ならば、既存の端末にコンテンツをそのまま流すしかなかったが、配給会社と端末メーカーがマッチングさせる一方、ランディードがアンドロイドベースの端末の開発を請け負うといったことも可能になる。端末メーカーとコンテンツ製作者の間にランディードが入り、かつ、ソフト開発も手掛けることで成り立つビジネスモデルである。

天野社長は、

「アンドロイドが携帯電話市場に与える衝撃は 아이폰の比ではないでしょう。 아이폰のOSは基本的にアップルのハードウェアを売るために作られ

たものですが、自由に改良できるという点でアンドロイドは全く違います。もし資金力さえあれば、どこの通信キャリアとも関係なく、モバイルW i M A X など新しい通信規格対応のアンドロイド携帯電話を作ることにも可能です」と、期待を寄せる。

豊富な社外人脈を駆使して幅広い領域をカバー

現在のところ、ランデイドほどアンドロイド関連で包括的なビジネス展開を想定しているところは他に見当たらない。2010年には、スマートフォン



天野友昭氏

%がアンドロイド搭載になるという予測も出ており、参入を検討している企業も多いようだ。しかし、実際に事業を手掛けるとなると、技術力や人的資源をすべて自社で保有するのはベンチャーには至難の業。同社が「アンドロイド普及の総合プロデューサー」を標榜できるのは、豊富な社外人脈によるところが大きい。案件ごとに、外部のパートナーと協力することで、幅広いビジネス展開を可能にしている。

天野氏は、

「もともと自分は営業、マーケティング畑の出身なので、関東圏の電機、自動車メーカーのキーマンの方たちとはつながりがあるし、当社の役員も豊富な人脈を持っています。また、日本にとどまらず、世界中で有力パートナーと提携関係を築いています」と語る。

売り上げ目標は、初年度こそ1億円程度と控えめだが、2年後には20億円程度まで成長を見込む。今後はa u、ソフトバンクといっ

た国内キャリアの他、中国の大手キャリアもアンドロイド携帯のラインアップを拡充させるなど、市場は拡大の一途を辿る見通し。今年末には、ランデイドが手掛けたアプリケーション第1弾が、実際に投入される予定となっている。

将来の携帯電話市場と自社の展望について、天野氏はこう語る。

「守秘義務があるので詳しくは言えませんが、今までの携帯にはなかったサービスも、この先登場する予定です。個人的には、もともと通信インフラは無料であるべきだと考えていますが、アンドロイドの登場によって、今後はその動きが加速すると思います。今は携帯の利用者が、高い端末料金を月賦で支払っている状態ですが、お客様が本当に利用したいサービスだけに納得してお金を払うようになるのが理想です。早ければ、3〜5年後には実現できるのではないのでしょうか」

今後は、面白いアイデアを世界中からインターネットで吸い上げて、アプリケーションとして実現する仕組みを構築することも考えているという。OS、コンテンツにかかわるすべてがオープンになることで、携帯電話の世界も確実に変わろうとしている。

<http://www.randido.com>